SHIMANE AKAHIGE BANK

島根の地域医療

2009／７／10　第２９号

発行先
島根県健康福祉部
医療対策課医師確保対策室

今回の紙面

◆地域医療最前線 NO.34《雫稔弘先生》　◆看護師さんのページ NO.14《松浦幸子さん》
◆研修医のページ NO.19《榎田信平先生》　◆赤ひげ先生《飯島慶郎先生》
◆自治医科大学訪問　◆しまね地域医療の会　◆女性医療職支援　◆地域医療支援コーディネーター養成　◆医師確保対策室からのお知らせ

地域医療最前線 NO.34

～きたれ島根県出身の精鋭たち～

出雲市立総合医療センター
院長　雫　稔弘

島根県出身で現在、県外で働いておられる医師、看護師の皆さん、また将来医師、看護師をめざして勉強中の皆さん、はじめまして。私は、出雲市立総合医療センター（旧平田市立病院）院長の雫と申します。現在すでに他県で活躍中の方々、生まれ育った島根を離れ今の生活は如何ですか？また、勉強中の人たちは、島根を恋しく思い起こすことはないですか？皆さんに向かって今さら、島根県の良さを説くこともはばかられますが、故郷を思い出してもらう為にわずかな紙面をかりて、当院と平田地域の紹介をさせていただきます。

当院は、宍道湖の北西部で、出雲市灘分町（出雲市街地、松江市街地には車で20分～25分の距離）に位置します。皆さんもおそらく、懐かしく見られただろうと思いますが、昨年のＮＨＫの朝の連続ドラマ「だんだん」の中で走っていた一畑電鉄（松江温泉～出雲市駅間）の雲州平田駅から徒歩５分ののどかな田園地帯にあります。昭和25年12月28日に平田町外11村で以って当院が設立され、半世紀以上が経ちました。その間、数回の増改築を行い、今現在、平成24年春完成予定の増改築をまさにスタートしたところであります。

完成後（建物外観）

皆さんもご存知のように、現在の医療界は、医師、看護師不足に端を発する医療崩壊が重大な問題となっています。当院とて例外ではありません。当院の病床数は１９９床（急性期１６１床、回復期38床）で、常勤医18名（内科６名、外科３名、泌尿器科１名、小児科１名、整形外科４名、眼科１名、放射線科１名、リハビリ科１名）、看護師89名です。非常勤科として、脳外科、皮膚科、精神科、産婦人科、耳鼻科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科を各々週１～５回体制で診療にあたっています。診療内容は、１次、２次救急（３次救急は、車で20分前後の距離にある近隣の病院との連携を図っています）を含めた地域医療が当院の主な役割です。

当院の利用対象患者様は、高齢者が多くその大部分を占めますが（ある意味日本の医療を10～15年先取りしている医療先進地域ともいえます）、症例は多岐に渡り豊富ですので、ベテランは臨床経験を生かし、若い方は即戦力を身につけてゆく環境の中で仕事ができると思います。

私も当院に赴任してあっという間に20年が過ぎました。病院から見る周りの風景は昔のままで目立った変化はありませんが、ここに暮らす人々が毎日安心して生活をおくっていけるよう、安心、信頼のできる医療を絶え間

完成後（全景）

なく提供しています。ぜひ、故郷にもどってきて、私たちといっしょにやっていこうではありませんか！！きたれ島根県出身の精鋭たち！

問い合わせ～病院管理課　原田まで
☎０８５３（63）５１１１内線３６６
［ホームページ］
http:/www.city.izumo.shimane.jp/hospital

看護師さんのページ

NO.14

隠岐広域連合立隠岐島前病院
看護師長　松浦　幸子

みなさん、こんにちは。隠岐島前病院の看護師は長年、新規採用がなく正職員の平均年齢は昨年９月に50歳に達しました。

「隠岐病院」、「海を越える看護団」等の看護師派遣による応援で人手不足を補い、なんとか病院機能を維持していますが、スタッフ不足は深刻な問題であり、地元出身者への帰郷の呼びかけをするなど、私たち看護部も一生懸命です。

でも、今年に入ってからでしょうか。少し風向きが変わってきたかな・・・と感じています。

５月に隠岐島前病院は、離島医療に興味を持つ本土出身の若手看護師を１名採用することができ、平均年齢は48歳になりました。看護師のブログ、病院広告を見た方からは、採用問合せの電話も時々あります。この調子で平均年齢がどんどんと若返ることを願い、離島に求められる「何でもできる看護師」、「とことんかかわれる看護師」を、みんなで目指したいと思います。

ところで、看護師派遣に協力いただいている「海を越える看護団」ですが、特定非営利活動法人ジャパンハートの看護部のことであり、この団体に籍を置く看護師がミャンマー等の海外で医療活動をしたあと半年間、国内研修で当院へ派遣されます。

僅かな期間の勤務ですが、彼女たちの成長には驚くものがあります。彼女たちの努力はもちろんですが、わずか44床のこの小さな病院には、病棟勤務、外来看護、手術室看護、訪問看護等で看護師として、成長できる環境があることを確信しています。

先日のことですが、看護団が看護師派遣をしている山梨県の牧丘病院看護師、五島列島へ派遣されている看護師、隠岐病院看護師が当院に集まり「チームで行う口腔ケアについて」と「それぞれの活動紹介」と題して研修会・交流会を行いました。離島・へき地という条件の中で、お互いの活動の良さを知ることができ、実践もあり、当院では早速自分たちの看護業務に取り入れようと動きだしました。また、この出会いから、確かな絆とともに繋がりの輪が広まっていくことも実感し、それぞれの看護師不足対策の「突破口の一つになりそうだ。」という思いにも至っています。

当院は、看護の原点を見つけることのできる職場です。離島医療、地域医療に興味のある方、一緒に私たちと働いてみませんか。正採用された方には就業一時金が支給されます。

研修会を終えてみんなで乾杯

知らない土地、住んだこともない島での生活に不安があれば、一度、見学に来られませんか。いつでも大歓迎します。

研修医のページ

NO.19

松江生協病院
２年目研修医　榎田　信平

大学時代に出雲６年間、研修医時代に松江２年間。私の島根県人歴は早くも８年目を迎えています。静岡県で生まれ育った私は、１年間の浪人生活を経て島根大学医学部に入学、晴れて島根県人となりました。なぜ遥々縁も所縁もない島根に・・・？もちろんセンター試験の成績に導かれたのですが、これも何かの縁ということで、私はこの山陰の地島根を思いのほか気に入ってしまいました。これだけの期間を過ごせば、知り合いや思い出も多く、何よりも住み慣れた地であるため、初期臨床研修を島根県でしようと決めたのにはさほど時間はかかりませんでした。そんな訳で、私

の医師人生最初の２年間は松江生協病院でスタートしたのです。

松江市には比較的規模の大きい総合病院として、当院の他に赤十字病院と市立病院があります。また大学病院や県立中央病院がある出雲市からは車で30分程であり、松江地域近郊は島根県の中では医師数が比較的確保されている地域と言えます。しかしそれでも、医師不足は身近で深刻な問題です。先輩医師方のオーバーワークぶりを毎日間近で見ていると、そのことを強く感じます。あと一人だけでもスタッフが増えればもう少し楽になるのに、という嘆きはそこらじゅうに転がっています。

私が現時点で地域医療に対して思うことを挙げるなら、できる限り早くその「あと一人」に加わりたいということです。島根県の医療を支えたいとか、申し訳ないですがまだそこまでの大きな思いは持てていません。ただ自分である程度の事はこなせる力と経験を身に付け、スタッフの一人として働けるようになりたい。それが先輩医師方の負担軽減に繋がり、結果として地域の医師不足解決にわずかでも役に立てていれば、それでよいかなと思うのです。今はひたすら自分磨きに専念しつつ、しかし常に周りへの感謝を忘れない謙虚さを持ち続けたいと思っています。

赤ひげ先生

浜田市国民健康保険弥栄診療所
医師　飯島　慶郎

平成21年４月から勤務させていただいております。

ふるさとの地域医療をテーマにしたこの紙面に寄稿させていただきますことを光栄に思います。

私は小さい頃体が弱く、よく近所の小児科を受診しておりました。頼もしい医師の姿を見て、幼いながらすばらしい仕事だと感じていました。また、実家が薬局で、患者さんの訴えに応じて相談に乗り、薬を選ぶ母の姿をみて育ちました。

そんな中で「何でも相談に乗り診てくれるまちのお医者さん」に憧れを抱くようになり、自然と医師の道を志そうと思うようになっていました。幸い勉強はさほど嫌いなほうではなく、かなりの努力を要しましたが、何とか地元島根医科大学の医学部に合格することができました。医学部に入ってからも勉強に励みましたが、進路に大きく悩みました。

医学は大きく細分化され、たとえ内科であっても数々の臓器別専門科に分割され、病棟の医療を中心とした高度な専門性を身につけるようなコースの研修システムしか見あたらなかったからです。自分はいわゆる地域の一般医になりたかったわけで、高度な専門性よりもむしろ外来中心の幅広い一般的医学知識が学習したかったわけですが、当時の専門科研修システムにはあわなかったようです。

結局考えあぐねた末、内科の中で特に診察手技が豊富な神経内科を含む当時の島根医科大学第３内科に研修先を求めました。豊富な診察手技と診断技術をまず身につけることはきっと「まちのお医者さん」にも大事なことだろうという考えからでした。（実際、このときに身につけた豊富な神経診察手技は今も大いに役に立っています）

第３内科で二年間の初期研修を積みましたが、やはり、もっと多分野を広く勉強したいという思いは強くなりました。

そんな中で、三重大学総合診療部の「家庭医養成プログラム」の存在を知ることとなりました。当時は今と違い、「家庭医」というのは聞きなれない言葉でしたが、きっと私の求めるものはここにあるという確信を得ました。

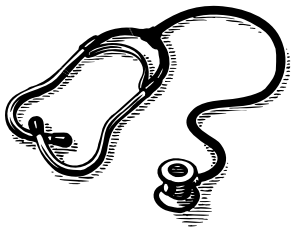
早速三重にわたり、後期研修としての家庭医研修に参加し、小児科、婦人科を始めとしてほとんどの科を３ヶ月から半年単位でローテート研修すると同時に、内科分野も消化器と循環器を中心にもう一度研修しなおしました。

又、三重大学の総合診療部外来にはいわゆる心身症の患者さんが多く、心療内科的対応や漢方治療などを集中的に学べました。

結局三重には５年間滞在し、島根の最初の２年間とあわせると７年間研修医をしたことになります。すこし長めの研修期間を過ごすことになりましたが、広く多くの分野を満遍なく学びたいと思っていた私の考えにぴったりとマッチし、最高に楽しい研修期間を過ごすことができまし

た。

三重大学の恩師津田教授の退官にともなって、私も今まで学んだことの実践をする場所を探す中で生まれ育った島根県に貢献したいと考えるようになりました。



その際全国自治体病院協議会を通してUターン先を探して頂き、現在の弥栄診療所を知りました。ここならば今まで学んだことを大いに実践できる場所だと感じ、ここに勤務先を求めさせていただきました。

浜田市では大麻診療所、波佐診療所、あさひ診療所、弥栄診療所が一体的に運営され国民保険診療所連合体を形成するという全国でも珍しい運営がなされ、魅力のひとつとなっています。弥栄診療所が位置する弥栄自治区は、中国山地の山間にあり、周辺人口が１８００人足らずの地域で、入院施設まで遠いため、診療所は子供からお年寄りまで、救急疾患から慢性疾患管理、在宅医療まで対応しています。この弥栄診療所を通じてふるさと島根に貢献できることを誇りに思います。

自治医科大学訪問

6月4日（木）、担当課長会議のため自治医科大学を訪れました。この会議の前後には、各都道府県出身の在学生と県担当者との交流会がセッティングされています。この交流会に、島根県出身の男子5名、女子9名の14名の学生が集まってくれ、また、卒後指導委員として島根県を担当してくださっている河野正樹准教授も参加してくださいました。

この交流会の前には、学生の協力を得て、この3月に新しくなった学生寮も見学させていただきました。各室にはトイレ、簡易キッチンが付き、居室の利便性が向上する一方で、大ラウンジや小ラウンジ、和室、集会室など学生同士及び教職員との交流の場も充実していました。

その寮で学生のみなさんと合流して、交流会会場へ向かったのですが、最初は学生も私たちも少々緊張気味で会話もぎこちない感じでしたが、時間がたつにつれ、ハードな勉強をしながらも部活やバイトに頑張る学生生活の様子や島根県の現状など会話が弾むようになりました。

そのなかで学生からは「私は○○科に興味がある、将来は○○科に進みたい」、「授業はまじめに受け、夜は予習復習をきちんとしている」など将来を見据えてしっかりと頑張っている姿がうかがえ、これから島根県の医療を担う学生たちを心強く思いました。私たち県担当者も、学生たちの頑張りに応えられるよう希望や要望にはしっかりと応えていきたいと思います。

「あの星を目指して！」と、闘志に燃える
自治医科大学生と河野准教授

夏に行う医学部進学説明会の実施に向けて高校と調整していますが、是非、彼ら学生たちに学生生活について将来の後輩たちに紹介してもらいたいと考えています。

最後になりますが、学生たち全員が寮に入り、良い意味で体育会系の年功序列として、上級生は下級生に自分の体験を話し、下級生からの相談に的確にアドバイスするなど、みんなで同じ夢に向かって支えあっている有意義な学生生活が感じられました。

これからも大いに勉強や部活に励んでもらい、卒業後は島根の地域医療の現場で活躍してくれることを期待しています。

【医療対策課　岩田】

しまね地域医療の会

6月13日（土）、出雲医師会館と隠岐病院をテレビ会議で繋ぎ、平成21年度第1回しまね地域医療の会を開催しました。

この会は、県内の地域医療機関に勤務いただいている医師が意見交換する場で年に2回開催しています。

県外から赤ひげバンクを通じて赴任いただいた医師、島根県の医学生向け奨学金を受給された医師等16名の新会員の加入があり、会員数は82名となりました。そのうち、出雲会場48名、隠岐会場6名、合計54名

冒頭であいさつをする中川正久会長
（テレビ会議システムの利用で隠岐とつなぐ）

の参加がありました。

まず、規約改正及び会長をはじめとする役員の改選を行い、中川島根県病院事業管理者が会長に選任されました。中川会長からは、島根大学と県が協力しあって新たな取り組みを行うことにより、島根で働く医師を増やすための支援をしていきたいとあいさつをいただきました。

医療対策課からは、平成21年度医師確保養成対策事業の内容及び国の「経済危機対策」において県が地域の医療課題の解決に向けて策定する「地域医療再生計画」等について説明しました。

各地区の活動報告においては、

[島前ブロック]西ノ島町で院外薬局のスタート

[隠岐ブロック]隠岐病院、都万診療所、五箇診療所への新たな医師の赴任

[飯南ブロック]飯南町において「飯南町の医療のあり方検討委員会」が発足

[邑智ブロック]7月に邑智病院の外科医が不在になる影響について

[浜田ブロック]浜田市中山間地域包括ケア研修センターの発足

など報告をいただき、意見交換を行いました。

意見交換の中で、県では医師を「助ける」施策として、代診医の派遣を自治法派遣により行っていますが、その代診医の派遣手当がなく頼みづらいという意見がありました。法を遵守しながらどのような手法があるのか、今後検討していくことになりました。

また、奨学金受給医師に、今後の地域医療への思いを伺うとともに、奨学金受給医師の派遣調整の場を設ける必要があるとの共通認識を持ちました。

この会の後には懇親会を行い、より一層充実した情報交換の場となりました。

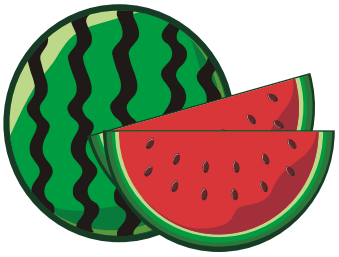
【医療対策課　太田】

女性医療職支援

女性医療職キャリア継続のための講演会が、6月29日島根大学医学部であり、「自治医科大学における女性医師支援の試みと職場環境の整備・意識改革」と題し、自治医科大学女性医師支援センター副センター長、湯村和子（ゆむらわこ）先生から先進的な取り組みを学びました。

講師の湯村和子先生

講演会には、島大や附属病院の職員、学生、自治体職員など、男女35名が参加。この中で湯村先生は「女性医師の支援は勤務医師の支援につながる。復職ではなく、とにかく辞めないでキャリアを継続できる環境整備が必要」と説明。短時間勤務制度の導入など、自治医科大学の具体的な取り組みや、意識改革の難しさなどを話されました。女性医師支援は、早急に取り組むべき課題とし、「気付いたところ、意識した人から改革を進めていかなければ間に合わない。過剰な勤務時間の改善など、魅力ある病院改革が必要」と説明がありました。



島大附属病院では、平成19年度に「女性スタッフ支援室」が開設され、就業継続・育児・復職支援の推進を展開されています。県内の各病院が刺激し合って改善していく体制も必要と感じました。

【医療対策課　藤井】

地域医療支援コーディネーター養成

新連載 NO.1

島根大学大学院医学系研究科に、この春「地域医療支援コーディネーター」養成コースが新設され、地域医療教育学講座の熊倉俊一教授の指導のもと、隠岐、大田、松江で働く3名が入学しました。

熊倉教授を囲んで

このコースは、医師の定着を支援するための人材養成を目的に、全国で初めて創設されたもので、島根の地域医療を支えるため、地域で勤務する医師・看護師等や医学部生との意思疎通を通じて、確保や定着に向けた支援を行なう人材の育成を目指しています。

二年間のカリキュラムがスタートし、医療関係の制度や法律、日本の医療水準の現状や課題を学んだり、時には医学部生とともに基礎医学の講義を受けています。9月からこのコースの特徴でもある、医療現場での実習が始まります。地域医療を支えるために、何が求められ、自分たちに何ができるのか考えていきたいと思います。

【藤井】

医師確保対策室からのお知らせ

医師確保対策室は4年目を迎え、室長の木村を中心に一致団結。一段と厳しくなる医師確保に向かい、島根の地域医療を支えるため、「呼ぶ」「育てる」「助ける」の3本柱を中心に、県内の医療機関と連携し、今年も事業展開していきます。

7名の医師確保対策室スタッフ
「よろしくおねがいします」

地域医療関係今後の行事予定

医学生や研修医への働きかけ

◆**医学生夏季・春季実習＆地域医療セミナー**
地域医療への興味関心を継続的に持ってもらうための現場体験やセミナー ［対象：医学生］

夏季実習　8月17日～21日
地域医療セミナー（第1回）8月21日

◆**初期、後期臨床研修ガイダンス**
県内の研修病院合同による初期と後期臨床研修の説明会 ［対象：医学生及び研修医］
［予定］平成22年2月

◆**若手医師ステップアップ研修＆意見交換会**
講師を招いての講演会と研修プログラム等についての意見交換 ［対象：研修医］
8月23日　場所：ウェルシティ島根

高校生への働きかけ

◆**高校生医療現場体験セミナー**
医療現場での体験、学習を通じ、医師の仕事や地域医療について理解を深める。 ［対象：高校生］
8月 6日　隠岐病院
8月11日　大田市立病院
8月12日　公立雲南総合病院

◆**夢実現進学チャレンジセミナー**
医学部や理系難関大学・学部への進路希望を実現できるよう支援するとともに、医学部への興味関心を喚起する ［対象：高校2年生］
8月5日～8日　3泊4日
場所：サンレイク及び島大医学部

魅力ある研修病院づくり

◆**臨床研修プログラムセミナー**
各研修病院の研修プログラムがより魅力的になるよう、他県の研修病院の講師を招いたセミナー ［対象：研修病院のプログラム責任者］
［予定］12月12日

◆**臨床研修指導医講習会**
厚生労働省の基準に沿った指導医養成講習会 ［対象：研修病院等の指導医］
［予定］11月21日～23日

◆**臨床研修病院連絡会議**
臨床研修についての会議を開催し、連携強化を図る ［対象：　臨床研修病院］
［予定］平成22年2月

◆**地域医療教育連絡会**
島根大学医学部6年生の地域医療実習受入機関の連絡会議
［予定］9月～11月

プログラム作成支援

◆**臨床研修プログラム作成支援**
全国から総合医を目指す研修医を集めることができるような研修プログラム作成を支援 ［対象：臨床研修病院］

［アドバイザー］
名古屋大学：伴教授、
自治医科大学：梶井教授

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。　また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501　松江市殿町１番地　島根県医療対策課医師確保対策室
TEL 0852-22-6684　FAX 0852-22-6040
E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/